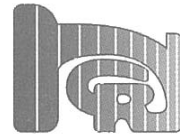


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



病院機能評価を受審して

副院長 小林 建仁

中部ろうさい病院は平成22年9月8日から3日間病院機能評価機構による病院機能に関する審査を受けました。

この審査を受けることにより、病院の改善すべき問題点が明確になります。当院の優れている点や、改善すべき問題点が具体的に示されることから、病院の現状を客観的に把握することが出来ます。

この審査にはクリアしなければならない約500もの評価項目があります。具体的な例を示しますと、①病院組織の運営は健全に行われているか、②提供された医療は患者さんの満足の数であるか、③患者さんの権利は尊重されているか、④療養環境は整備されているか、⑤医療現場における倫理的判断は妥当か、⑥多職種参加によ

るチーム医療は実践されているか、⑦説明と同意について患者さんが分かりやすいように適切に対応しているかです。

これら評価項目の主眼点は、「病院が患者さんに安全で質の高い医療を提供できる体制を整備しているか」、このことに要約されると思います。

現時点では、どのような審査結果がでるのかわかりませんが、第三者から病院の現状を客観的に見てもらうということはとても良いことだと思います。第三者から指摘されることにより、問題点について共通した認識を持つことが出来ます。評価された良い点は更に伸ばし、指摘を受けた点については真摯に改善に取り組んでいきたいと思っています。これからも中部ろうさい病院が地域の皆さまから愛され、信頼される病院であり続けるよう努力してまいります。

今月号のお知らせ

- ①病院機能評価を受審して
.....副院長 小林 建仁
- ②2010年春からリウマチ・膠原病科外来が始まりました。
.....副院長 藤田 芳郎

- ③当院のリハビリテーション科について
.....リハビリテーション科技師長 萱野 稔
- ④医療安全管理者になって
.....医療安全管理者 森 真由美
- ④編集後記

医師



2010年春からリウマチ・膠原病科 外来が始まりました。

副院長 藤田 芳郎

当科では、全身性エリテマトーデスなど難病指定疾患を多く含む膠原病や関節リウマチを診療しております。

膠原病について

膠原病には、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発筋炎、強皮症、ウェグナー肉芽腫症、顕微鏡的多発血管炎などをはじめとするさまざまな疾患があります。はじめは「関節や体のあちこちが痛い症状が続く」とか「微熱が続く」などの漠然とした症状から始まったり、肺炎や腎臓病や皮膚病などから始まったり、などいろいろな症状から病気が始まりますし、その後の診療もきめ細かく全身を診ていかなければなりません。

膠原病は全身疾患であるため、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、糖尿病・内分泌内科、眼科、皮膚科、整形外科、口腔外科、耳鼻咽喉科などをはじめとする多くの科と連携しながら診療を行っております。

関節リウマチについて

「朝起きたら30分以上手がこわばる」などが関節リウマチの典型的な症状ですが、必ずしも手から始まるとは限らず、膝や肩から始まり、手首の関節が痛んでくるといった症状から始まることもあります。また関節リウマチに似た他の疾患であることもあります。是非これらの症状が出現し続くようなら当科を受診ください。関節リウマチの治療は最近大きく改善され、欧米で10年以上前から使われている特効薬が日本でも数年前から使用できるようになりました。関節リウマチの診断基準も2010年に変わり、早期診断早期治療により変形をきたすことが少ない時代になりました。しかし、特効薬である製剤は副作用もあり、結核などの感染症を予防するなどのきめ細かな検査と経過観察が必要となります。

膠原病ではないか、関節リウマチではないかと感じられたらぜひ当科にご相談ください。

★「フィリア・レター」は、「中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



技師

当院のリハビリテーション科について

リハビリテーション科技師長 萱野 稔

こんにちは、今年4月にリハビリテーション科技師長として赴任した萱野です、よろしくお願ひします。都市景観賞に輝く建物、東海地区でトップクラスの医療水準を誇るスタッフがそろった活気ある病院に勤務することができて、光栄に思っているところです。

当科は医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と助手の総勢32名です。毎朝ミーティング申し送りの後、新規担当患者のグループ検討会を行い、画像や検査データ・依頼情報などから訓練方法や注意点を確認します。この時の先輩や同僚のアドバイスが、安全に最適な訓練を行なう事にとっても役立ちます。そして、発症直後・手術直後の患者さん(半分以上がそうなのですが)には開始前に必ず担当看護師に状況確認をしてから訓練を開始しています。人工呼吸器や酸素・麻酔・点滴などの管がたくさんつながった状態でも、医師・看護師と情報交換しながら行うことにより、訓練ができ早期離床を可能にしています。

作業療法士は、通常の訓練とは別に、病院での生活ができるだけスムーズにできるように病室での日常生活動作の指導介入を

行っています。頸髄損傷など重度障害の人が入院された時には、入院日から夕食が上手に食べられるように即日病室訪問して食事動作指導や自助具製作などを行っています。言語聴覚士は、コミュニケーションと嚥下摂食の専門家としてNST(栄養サポートチーム)や摂食機能改善活動に参加しています。

当院の特徴のひとつに、脊髄損傷のリハビリテーションがあります。脊髄損傷は一般的には重度障害者とされている人たちですが、当院の卒業生の多くが社会復帰して仕事やスポーツに励んでいます。そういう人たちに講師となっていただき、苦労や喜び生活のノウハウなどを入院中の患者さんや地域の方々に話していただく社会生活講座を開催していますので、機会があれば参加してみてください。

最後に一つだけお願いがあります。リハビリテーションは、受けるというよりも行なうところです。リハビリテーション科を受診することがありましたら、自主訓練の方法や退院後の注意点、わからない事などなんでも担当の技師に質問して、指導に従って積極的に取り組んでいただくようお願いいたします。

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。



医療安全管理者になって

医療安全管理者 森 真由美

医療安全管理者という役割があることをご存知でしょうか。

医療安全管理者は、患者さんに安全な医療サービスを提供するために、病院内の安全管理を担っています。その具体的な業務内容は、各部署から提出される、日々の仕事に起きたヒヤリとした、ハッとした出来事に関する報告書の把握や情報収集、分析により、次に同じ様な出来事を起さないための対策の検討とその対策が実践できるよう、現場の環境を整えたり、時には、現場のスタッフと一緒に対策を検討することなどです。

また、収集したデータから、事故防止のための新人教育や、職員の研修の企画、運営なども行っています。4月に就任し報告書の処理をしながら最近強く感じていることは、医療安全には、患者さんの協力が不可欠だということです。例えば患者確認においては、患者さん自ら名乗っていただく必要があります。長年労災病院に通院されていて職員と顔なじみであっても、診察時、採血、点滴、注射の前には必ずお名前をフルネームで名乗っていただく必要があります。患者と医療者が一緒に確認し合って誤認防止をすることが、一番効果的な確認方法だと思います。そして、自分の受けている治療内容に関心を持っていただくことも大切だと思います。

当院の医療安全が、患者さんと医療従

事者とで、お互い協力しより良い関係で作り上げていくことができるよう、努力していきたいと思います。

厚生労働省では、医療事故の防止対策に取り組むとともに、国民の理解や認識を深めることを目的として、毎年11月25日を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、医療機関や医療関係団体と一緒に、医療安全に関する取り組みを推進しています。

平成22年度の医療安全推進週間は、11月21日～27日で「分かるまで、聞こう、話そう、伝えよう」が、メインテーマとして掲げられ、当院でも、患者さんに参加してもらい、共に医療安全を考えてもらうための取り組みを行いました。

患者さんの協力が、医療の安全には不可欠です。例えば患者確認においては、何年労災病院に通院していても、何ヶ月入院していても、診察時、採血、点滴注射の前には必ずお名前をフルネームで名乗っていただきます。たとえ顔見知りの患者さんでも同じです。少々面倒かも知れませんが、患者確認は、医療安全の基本ですのでご協力をお願いいたします。

ご自身に行われる治療、行われている治療に興味をもち、自分の治療内容を知ることが、大切です。医療安全推進週間が、医療安全について、考えるきっかけになれば良いと思います。

編集後記

猛暑だった夏が過ぎ一気に冬本番となりました。

正面玄関にはクリスマスツリーも飾られいよいよ今年もあと一月です。また、インフルエンザが流行し始める時期でもあります。手洗い、うがいをマスターし、年末のイベントを目一杯楽しむよう日々心がけましょう。

(H.F)

